

平成29年度 北海道博物館 年度計画

平成29年3月

北海道博物館

目 次

1	資料の収集・保存	
(1)	資料の収集	1
(2)	収蔵機能の強化	1
(3)	資料保存環境の維持	1
(4)	収蔵資料の利用への対応	1
2	展示	
(1)	総合展示室の運営	1
(2)	企画展示の開催	1
(3)	アイヌ文化に関する展示事業【アイヌ研】	2
3	調査研究	
(1)	調査研究の推進	2
(2)	アイヌ文化に関わる調査研究の重点化【アイヌ研】	3
4	北海道開拓の村の整備	3
5	教育普及事業	
(1)	魅力あるイベントの充実	3
(2)	教材の充実	4
(3)	はっけん広場の運営	4
(4)	アイヌ文化に関わる教育普及事業【アイヌ研】	4
6	ミュージアムエデュケーター機能の強化	5
7	道民参加型組織の整備	5
8	施設及び周辺環境の整備	
(1)	館内施設の整備と活用	5
(2)	周辺環境の整備	5
(3)	野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進	5
9	広報	
(1)	広報活動の強化	5
(2)	赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携	6
10	評価制度の活用と利用者ニーズの把握	6
11	博物館ネットワーク	
(1)	各種博物館団体との連携	6
(2)	博物館交流の促進	6
12	情報発信	
(1)	アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信【アイヌ研】	6
(2)	ICTなどを活用した情報発信機能の強化	7
(3)	道民の「知りたい」気持ちへの支援	7

(4) アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】	7
1.3 人材育成機能の強化	
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ	7
(2) 外来研究員の受入	7
(3) 派遣研修	8
1.4 研究成果の発信と社会貢献	
(1) 学術刊行物などの刊行	8
(2) 学会への発信	8
(3) 職員の対外貢献	8
(4) 外部機関との事業連携	8
(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献	8
(6) アイヌ文化研究の発信【アイヌ研】	8

以下については、平成27年度の北海道立総合博物館協議会の答申を受けて、H28年度から年度計画の中に追加したものである。

【外部評価項目】ガバナンス体制の育成	9
(1) 館内の意思決定機関の育成	9
(2) 研究センター内の意思決定機関の育成	9
(3) 道庁の支援体制の育成	9

■別添資料 平成29年度アイヌ民族文化研究センター事業計画（抜粋）

1 展示事業	
1) 総合展示	12
2) 企画展等	12
3) 巡回展	12
2 調査研究事業	12
3 資料・情報の収集・整備事業	13
4 資料・情報等の公開・提供事業	
1) 資料の公開	13
2) 情報発信	
(1) 学術情報の集約	13
(2) 発信基盤の整備	13
(3) 学習・伝承活動への支援	13
5 成果の普及事業	
1) 教育普及	13
2) 研究成果の提供	13

1 資料の収集・保存

(1) 資料の収集

- 資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。
- 収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新規受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。
- 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて、目録の刊行に向けた作業を進める。
- 貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進めるとともに、整理するための分類を再検討する。

(2) 収蔵機能の強化

- 収蔵資料データベースの資料情報を速やかに登録するとともに、その後の資料移動の記録や公開情報の更新を含め、システムの円滑な運用を進める。
- 災害発生時における被災資料の受入れや保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。
- 収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。

(3) 資料保存環境の維持

- 温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。

(4) 収蔵資料の利用への対応

- 収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。

2 展示

(1) 総合展示室の運営

- 総合展示の定期的な入替えを実施する。
- 障がいの有無に関わらず、すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。
- 総合展示のメンテナンスに努める。
- 総合展示の防犯体制の見直しを進める。
- 子どもの興味を喚起する展示手法を導入する。

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 29 年度）
総合展示室利用者数	110,000 人
うち外国人利用者数	4,000 人

(2) 企画展示の開催

- 民間企業と連携した、より魅力的な企画展示を開催する。
- 研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。
- 次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。

特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 29 年度）
特別展示室利用者数	80,000 人

(3) アイヌ文化に関する展示事業 【アイヌ研】

ア 総合展示室の運営

以下の3点について、所管グループとの連携のもと、実施する。

① クローズアップ展示の運用

- ・ 第2テーマのクローズアップ展示3、4について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画を策定し、計画に基づく入れ替えを実施する。
- ・ 他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。
- ・ 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。

② 「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用

- ・ 更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。

③ 展示資料の定期的な入れ替え

- ・ コーナー及び資料の種別に応じた入れ替え計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入れ替えを実施する。
- ・ iPadを利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入れ替えと連動した画像の追加・更新を実施する。

イ 企画展示の開催

- ・ 第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」を実施する（平成30年2月2日～4月8日）。実施にあたっては、「地域差・個人差が多様なアイヌの世界観について、その多様性に配慮しつつ、どのようにして基本的な情報を伝えるか」「世界観」「物語」という“モノ”“形”をともなわないものをどのようにわかりやすく展示するか」の2点に留意し、関係機関との協力・連携によって内容の充実を図る。
- ・ 第9回企画テーマ展「弥永コレクション」のうち、主にアイヌ民族資料の整理と紹介を分担する。展示を通して、資料の特徴や意義を適切に伝達できる解説を実施する。
- ・ 平成30年度以降の企画テーマ展、蔵出し展の計画を策定する。またアイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展の開催についても検討を継続する。
- ・ 既にテーマを定めている「地名から見える北海道（仮）」については、北海道命名150年に当たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進める。

ウ 巡回展の開催

- ・ 平成29年度の巡回展を開催し、30年度以降の開催計画を策定する。策定にあたっては、平成28年度同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。

3 調査研究

(1) 調査研究の推進

- ・ 地域情報集積プロジェクト4課題、「自然・歴史・文化」総合研究4課題を前年に引き続き実施する。最終年度となる3課題について、成果をまとめるとともに、次年度からの研究課題の立ち上げに向けて、早くから検討を行う。
- ・ 調査研究のあり方を検討し、研究推進を図る場として設置した調査研究ワーキングチーム等において、調査研究への道民参加の具体的な仕組み作り、道民の研究成果の発表の場の確保の具体案について検討を進め、実現を図る。
- ・ サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館と共同研究を継続して実施し、合せて友好関係を深める。
- ・ 月1回の定例研究報告会を継続して実施する。外部講師の招聘を検討し、実現を図る。
- ・ 科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、館として取り組むべき研究課題のあり方について議論を進めつつ、新規課題の申請を積極的に行う。

- その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申請などの手続きを行う。

(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化 【アイヌ研】

ア 調査研究事業

- 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。
- 平成28年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。
- ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。
- 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。

イ 資料収集と整備

- 未整理資料の整理・データ登録・配架について平成29～31年度で完了させる計画を再度策定し、実施する。
- 新規に受け入れるキーステン・レフシン資料等の整理を進める。その際、整理・登録の流れを全館的に確定する取り組みに参画するとともに、研究紀要等を使った継続的・組織的な紹介の進め方を検討し、実施する。
- 研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。

ウ 資料公開

- 資料公開手続きを再開し、実施する。
- 公開計画を再策定し、年間公開点数の増加を図る。

4 北海道開拓の村の整備

- 平成29年度北海道開拓の村施設整備計画にしたがって、建造物の補修工事等を実施する。また、Wi-Fi整備、トイレ洋式化の工事を実施する。
- 地方創世拠点整備交付金による「歴史文化施設におけるインバウンド交流施設整備事業」を実施する。
- 平成30年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。
- 平成28年度に引き続き、北海道開拓の村内部展示の改修・改訂について検討を進め、建造物内部展示改修・改訂整備計画を策定する。
- 「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」をもとに、開拓の村のありかたについて、北海道150年に向けた具体的な検討を進める。

5 教育普及事業

(1) 魅力あるイベントの充実

- 「ハイライトツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示を楽しく観覧することができるように、総合展示室内で展示解説を実施する。
- 子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。

- ・ 調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。
- ・ 「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、引き続き、学校教員を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。
- ・ 「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。
- ・ 利用者の満足度把握や、各種事業が修了した後に運営・企画等のさらなる見直しを行ない、事業の改善・充実化につなげる。

イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 29 年度）
イベント参加者数	6,000 人

（2）教材の充実

- ・ 「クイズシート」や「ちゃれんがラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発についての取組を進める。
- ・ より充実した多言語解説サービスのあり方について検討する。
- ・ 6か国語対応のプロモーションビデオを、より多様な場面で活用する。
- ・ 学校教員と連携を深め、学校教育にとってよりよい教材を開発する取組を進める。

（3）はっけん広場の運営

- ・ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。
- ・ はっけん広場をより魅力的な空間にする「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場の充実化に向けた取組を行なう。
- ・ はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための「はっけんプログラム」を実施する。
- ・ 子どもをはじめとする来館者が、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。
- ・ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」を開発するとともに、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を図る。
- ・ 学校など、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への「はっけんキット」の貸出しを実施するとともに、「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組を進める。
- ・ 引き続きはっけん広場に対する利用者ニーズの把握に取組むとともに、苦情や要望に対する対応手順を明確化し、はっけん広場の改善・充実化に結びつける。

はっけん広場利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 29 年度）
はっけん広場利用者数	26,000 人

（4）アイヌ文化に関わる教育普及事業 【アイヌ研】

- ・ 館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。
- ・ グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

- ・ 館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
- ・ より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。

7 道民参加型組織の整備

- ・ 第1期計画「ミュージアム・パートナー」（仮称）事業を実施する。また、同パートナーによる博物館運営等の諮問的な組織を設置する。
- ・ 道民参加の促進に向け、ボランティア組織や北海道総合博物館を支援する組織体制の強化を図る。
- ・ 文化庁などからの外部資金を獲得し、全道規模の博物館ネットワーク、ミュージアム・パートナー事業などの推進と強化を図る。
- ・ 道民参加型の事業を検討し、実施する。

8 施設及び周辺環境の整備

(1) 館内施設の整備と活用

- ・ ミュージアムショップ等のアメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含めた検討を進める。
- ・ オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。
- ・ 記念ホール等の活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準（仮称）」等の検討・策定を行う。

(2) 周辺環境の整備

- ・ サインの統一化について、森林公園内土地所有者（国有林、道有林）と野幌森林公園管理運営協議会等の場で検討を進める。
- ・ 屋上スカイビューは、4月29日から9月23日までの祝日開館日（計8日間）の10:00～16:00に開放する。

(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

- ・ ホームページの運営など一体的な広報活動をはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。

9 広報

(1) 広報活動の強化

- ・ あらゆる広報媒体を活用し、職員全員で積極的な広報活動を展開する。
- ・ 愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に当館発行の広報媒体やサインなどに活用するとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。
- ・ 北海道博物館プロモーションビデオをさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用者促進に結びつける。
- ・ 各媒体からの照会にともなう広報を継続しつつ、戦略的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。
- ・ 平成28年度要覧を刊行する。

ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成29年度）
ホームページのアクセス数（トップページ）	190,000件

(2) 赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携

- ・ 平成29年3月に改善を予定している新「北海道博物館赤れんがサテライト」の空間が、より魅力のある空間へと改善されたかどうか、効果検証を行なう。
- ・ 道内博物館の情報発信機能の充実を含め、新「北海道博物館赤れんがサテライト」の運用戦略を策定し、実行する。
- ・ 「サイエンスパーク」や「かるちやる net」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。
- ・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」において、利用者と直に接する広報活動を展開する。
- ・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への誘客へとつながっているか、定量的に把握し、改善・充実化への取組を行なう。

10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- ・ 北海道立総合博物館協議会（年2回）とアイヌ民族文化研究センター専門部会（年1回）などの円滑な実施と運営を行う。平成29年度は、第1期中期目標・計画（平成27～平成31年度）の中間外部評価を実施する。
- ・ 内部評価の実施と運営を行う。
- ・ アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチを実施する（4回）。

利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成29年度）
利用者満足度	80パーセント

11 博物館ネットワーク

(1) 各種博物館団体との連携

- ・ 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。
- ・ 北海道博物館協会事務局を通じて、地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。

(2) 博物館交流の促進

- ・ 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。
- ・ 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。
- ・ 連携・協力に関して、地域の博物館や学校などのニーズの把握に努める。

道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成29年度）
道内市町村等との連携・協力件数	45件

12 情報発信

(1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信 【アイヌ研】

ア 情報発信方策の再検討

- ・ 現在及び今後の北海道博物館によるウェブサイト及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する（ウェブサイト上でのページ・コンテンツの設定等）。
- ・ 上記と並行して「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。

イ 学術情報の集積

- ・ 収蔵資料のデータ整備を行う。
- ・ 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。

(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化

- ・ 北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整備作業を引き続き進め、インターネット上での公開に向けた取組を進める。
- ・ ウェブサイトおよびツイッターを運営し、館内の多様な情報を発信する。
- ・ 館内のICTの充実・活用を包括的かつ一元的に検討するために、平成29年度発足予定のワーキングチームと連携しながらソーシャルメディアの一層の活用を進め、多様な媒体による北海道博物館の諸情報の発信力を強化する。

(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

- ・ 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民向け蔵書の充実化を進め、図書室での利用を促進する。
- ・ 図書室の基本的な機能をさらに充実させるとともに、道民向けの蔵書の充実、展示等と連動した開架コーナーの更新など、図書室利用の促進につながる取り組みを進める。
- ・ 昨年度から開始したレファレンスの集計記録を着実に実施するとともに、1年の実績を踏まえたマニュアルの見直しを図る。また、レファレンス内容について館内で情報を共有化する仕組みを作る取組を進める。

来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成29年度）
写真の提供件数	90件
レファレンス件数	800件
アンケート、その他の利用件数	100件

(4) アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】

- ・ 博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。平成29年度は次の2点を実施する。
 - ① ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。
 - ② レファレンス対応の記録票の定型化を踏まえ、これらの情報の共有化による対応力の向上を図る。

1.3 人材育成機能の強化

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

- ・ 博物館実習（館務実習）を夏季に1回実施する。
- ・ 博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的に受け入れる。
- ・ 博物館実習の内容についての効果測定を行い、その結果を反映させたより効果的な実習プログラムの構築に向けた取組を進める。
- ・ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

(2) 外来研究員の受入

- ・ 外部研究者や大学院生などを外来研究員として受入れるため、規定類の整備など体制構築を行う。

(3) 派遣研修

- 外部機関が開催する、博物館学系（特に展示や普及教育など）の研修会などに当館職員を参加させる。

1 4 研究成果の発信と社会貢献

(1) 学術刊行物などの刊行

- 『北海道博物館研究紀要』『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号を刊行する。
- 研究紀要のウェブサイト上での公開を進めるとともに、旧開拓記念館・旧アイヌ民族文化研究センターの学術刊行物等についても遡及して著作権等の処理を進め、可能なものから順次、電子媒体での公開を進める。
- 特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。
- 企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。

(2) 学会への発信

- 学芸職員、研究職員による積極的な学会等での発表を促進するとともに、研究グループないし北海道博物館としての研究成果発信のあり方や方法について検討を進める。

(3) 職員の対外貢献

- 各種委員や非常勤講師等への就任、共同研究等への参画、講演会・講座等への講師の派遣、その他専門的知見の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。

(4) 外部機関との事業連携

- 引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。

(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

- 政策事業の推進と実施を積極的に行い、中核的な博物館としての役割を担う。
- 北海道150年事業への積極的なアプローチを行う（特に、特別展「松浦武四郎」展の開催に向けた準備、「北海道百年記念施設」の今後の整備等について、検討を具体化させる）。
- 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献するための取組を進める。

社会貢献の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成28年度）
新聞・報道対応の件数	計 600 件
学会発表の件数	
学術雑誌等への寄稿の件数	
招待講演の件数	
各種委員・共同研究員等委嘱の件数	
その他の件数	

(6) アイヌ文化研究の発信 【アイヌ研】

- 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号を刊行する。
- 平成29年度に開催する企画テーマ展に調査研究課題の成果を反映させていく。
- 『アイヌ文化紹介小冊子』収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。

- ・ 「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。

【外部評価項目】ガバナンス体制の育成

(1) 館内の意思決定機関の育成

- ・ 運営会議のスムーズな運営と意思決定機関としての能力をより高めるため、各グループ間の事前調整はもとより、特に資料のスリム化、事前配付を徹底する。
- ・ 事業の着実な推進を図るため、懸案事項と本評価との整合性を図りつつ、優先的に取り組む事業を明確化し、予算要求に反映させるとともに、管理職による事業の進行管理を強化する。
- ・ 博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関へのPRを図るため、視察対応の一層の充実が必要であり、より柔軟な受け入れ体制の整備を進める。

(2) 研究センター内の意思決定機関の育成

- ・ 研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。
 - ① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。
 - ② 研究センター職員による会議を定例化し、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。
 - ③ 研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。

(3) 道庁の支援体制の育成

- ・ 博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと解決を図る。

【別添資料】

平成29年度アイヌ民族文化研究センター
事業計画（抜粋）

1 展示事業

1) 総合展示

以下の3点について、所管グループとの連携のもと、実施する。

① クローズアップ展示の運用

- ・ 第2テーマのクローズアップ展示3、4について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画を策定し、計画に基づく入れ替えを実施する。
- ・ 他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。
- ・ 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。

② 「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用

- ・ 更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。

③ 展示資料の定期的な入替え

- ・ コーナー及び資料の種別に応じた入れ替え計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入れ替えを実施する。
- ・ iPadを利用して過去に展示してきた衣服(晴れ着)を紹介する展示について、資料の入れ替えと連動した画像の追加・更新を実施する。

2) 企画展等

- ・ 第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」を実施する。実施にあたっては、「地域差・個人差が多様なアイヌの世界観について、その多様性に配慮しつつ、どのようにして基本的な情報を伝えるか」「世界観」「物語」という“モノ”“形”をともなわないものをどのようにわかりやすく展示するか」の2点に留意し、関係機関との協力・連携によって内容の充実を図る。
- ・ 第9回企画テーマ展「弥永コレクション」のうち、主にアイヌ民族資料の整理と紹介を分担する。展示を通して、資料の特徴や意義を適切に伝達できる解説を実施する。
- ・ 平成30年度以降の企画テーマ展、蔵出し展の計画を策定する。またアイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展の開催についても検討を継続する。
- ・ 既にテーマを定めている「地名から見える北海道(仮)」については、北海道命名150年に当たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進める。

3) 巡回展

- ・ 平成29年度の巡回展を開催し、30年度以降の開催計画を策定する。策定にあたっては、平成28年度同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。

2 調査研究事業

- ・ 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。
- ・ 平成28年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開(展示等への成果反映、新たな課題設定等)を検討し、実施する。
- ・ ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン(樺太)アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。
- ・ 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。

3 資料・情報の収集・整備事業

- ・ 未整理資料の整理・データ登録・配架について平成29～31年度で完了させる計画を再度策定し、実施する。
- ・ 新規に受け入れるキーステン・レフシン資料等の整理を進める。その際、整理・登録の流れを全館的に確定する取り組みに参画するとともに、研究紀要等を使った継続的・組織的な紹介の進め方を検討し、実施する。
- ・ 研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。

4 資料・情報等の公開・提供事業

1) 資料の公開

- ・ 資料公開手続きを再開し、実施する。
- ・ 公開計画を再策定し、年間公開点数の増加を図る。

2) 情報発信

(1) 情報発信方策の再検討

- ・ 現在及び今後の北海道博物館によるウェブサイト及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する（ウェブサイト上のページ・コンテンツの設定等）。
- ・ 上記と並行して「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。

(2) 学術情報の集積

- ・ 収蔵資料のデータ整備を行う。
- ・ 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。

(3) 学習・伝承活動への支援

- ・ 博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。平成29年度は次の2点を実施する。
 - ① ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。
 - ② レファレンス対応の記録票の定型化を踏まえ、これらの情報の共有化による対応力の向上を図る。

5 成果の普及事業

1) 教育普及

- ・ 館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。
- ・ グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。

2) 研究成果の提供

- ・ 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号を刊行する。
- ・ 平成29年度に開催する企画テーマ展に調査研究課題の成果を反映させていく。
- ・ 『アイヌ文化紹介小冊子』収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。
- ・ 「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。

平成29年度 特別展・企画テーマ展実施計画

	区分	第8回企画テーマ展	第3回特別展	第9回企画テーマ展	第10回企画テーマ展
	タイトル	夜の森—ようこそ！動物たちの世界へ—	プレイボール！—北海道と野球をめぐる物語—	弥永コレクション	カムイとアイヌの物語
	チーム	表溪太(チーフ)、堀繁久、水島未記	三浦泰之(チーフ)、会田理人(サブチーフ)、舟山直治、村上孝一、山田伸一、栗原憲一	堀繁久(チーフ)、山際秀紀(サブチーフ)、尾曲香織・青柳かつら(生活)、右代啓視・三浦泰之(歴史)、大坂拓・小川正人(アイヌ)、表溪太・添田雄二(自然)	小川正人(チーフ)、大谷洋一(サブチーフ)、遠藤志保
	期間	4月28日(金)～6月4日(日)	7月8日(土)～9月24日(日)	10月20日(金)～11月26日(日)	2月2日(金)～4月8日(日)
特別展示室	概要	夜行性の哺乳類や鳥類の生態を主に剥製標本を用いて紹介する。北海道の夜の森をイメージした展示室をめぐって動物を探し、普段は接することのない夜の森の雰囲気を感じること、自然や動物に興味をもってもらうことを目的とする。	北海道のスポーツ史、スポーツ文化を語る上で、スポーツとして、また、娯楽として、根強い人気を誇る野球は外せない。平成28年(2016)は、北海道日本ハムファイターズの日本シリーズ制覇、夏の甲子園での北海高校の準優勝もあり、道内での野球への関心は高まりを見せている。そこで、道内初の「野球」をテーマにした大規模な企画展を実施することで、北海道における、スポーツとして、また、娯楽としての野球の歩みをふりかえるとともに、北海道の歴史や産業、生活文化との関わりについても紹介する。	弥永芳子氏が長年にわたり北海道各地を歩き調査・収集し、弥永北海道博物館で展示公開・保管されてきた砂金等の鉱物、琥珀、化石、アイヌ民族資料、考古遺物、絵画、文書、貨幣、貝など、当館に寄贈された弥永コレクションを一堂に公開する。これら北海道の自然・歴史・文化に関わる貴重な資料と、弥永氏の調査・研究の成果について広く道民に紹介する。	アイヌ文化の理解において、カムイという存在についての知見はその第一歩と言うべき位置を占める。アイヌ民族の伝統的な信仰では、この世界では、カムイとアイヌ(人間)が関わりあい影響を及ぼしあっているとされており、カムイのことをより知ることで、アイヌ文化の理解もいっそう深まるものと考えられる。一方で、カムイについては、簡単な説明だけでは尽くせるものではなく、地域などによる違いもさまざまであり、そのために単純化された誤解も未だ多く見受けられる。そこで、北海道博物館としてアイヌ文化を主題に据えた企画テーマ展の最初は、アイヌ文化の中でも伝統的な世界観・信仰の軸になる、〈カムイ〉と〈アイヌ(人間)〉の関わりを主題とする。展示の方法として、一般の関心も高く、また〈カムイ〉と〈アイヌ〉のすがたやお互いの仕来りを具体的に語っている場面が豊富な〈物語〉を主ないどぐちとして紹介するかたちを基本とする。展示の手法として、子どもや家族連れでも楽しみながら観覧できるよう、アイヌ民族の口頭伝承からみえるカムイたちのさまざますがた、カムイとアイヌとの関わりについて、イラストや動画を活用しながら、また、当館の特徴を活かして、生物学や地学など当館の諸分野の知見も参照しながら、わかりやすく、興味深い内容で紹介することを目指す。
	広報文	日がしずむと森の動物たちは元気に動きはじめます。北海道博物館に出現した夜の森を探検しよう！やみに光る目、草をふむ音、空をわたる影。さあ、こわがらないで。いつもは見ることのできない動物たちのすがたを、そつとのぞいてみませんか？	2016年における北海道日本ハムファイターズの日本シリーズ制覇、夏の甲子園での北海高校の活躍は、みなさんの記憶に新しいのではないのでしょうか？ いまから140年ほど前に北海道へ伝わってきた野球は、スポーツとして、遊びとして、北海道の社会や産業、くらしのうつりかわりと深く結びつきながら、たくさんの人びとに親しまれてきました。この特別展では、そんな北海道における野球の歩みを、数々の実物資料や写真などから紹介します。それでは、始めましょう、プレイボール！	弥永北海道博物館を運営していた弥永芳子氏から寄贈を受けた砂金や貨幣、絵画などの貴重なコレクションを一堂に公開します。	アイヌ文化の理解に欠かせない〈カムイ〉という存在。アイヌ民族が伝えてきた物語などに描かれたカムイのすがたや、カムイと〈アイヌ(人間)〉との関わり合いのようすを通して、アイヌ民族の信仰や世界観を紹介します。
	備考				

平成29年度クローズアップ展示更新計画

	2017									2018		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	4月8日(土)～		6月3日(土)～		8月5日(土)～		10月7日(土)～			12月16日(土)～		2月3日(土)～
1	《松前江差屏風》を読む 本州から渡ってきた船でにぎわう18世紀中ごろの松前、江差湊の様子を描いた屏風を紹介します。(東)		《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む(右隻:1～6月) 19世紀中ごろのアイヌ民族の一年間の生活のうつりかわりや、場所請負制というしくみのもとで変わりつつあるアイヌ民族の様子を描いた屏風を紹介します。(東)		《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む(左隻:7～12月) 19世紀中ごろのアイヌ民族の一年間の生活のうつりかわりや、場所請負制というしくみのもとで変わりつつあるアイヌ民族の様子を描いた屏風を紹介します。(東)		豪商村山家の古文書 江戸時代の松前・蝦夷地において、イシカリ場所請負人等として活躍した豪商・村山家の古文書を紹介します。(東)			松前藩家臣近藤家の古文書 松前藩の上級藩士として活躍した近藤家に伝わる古文書を紹介しします。(東)		ヨイチ場所請負人林家の古文書 場所請負制下の漁場経営やアイヌ社会の様子などを具体的に知ることができる貴重な古文書を紹介しします。(東)
2	新選組の元幹部隊士 永倉新八 江戸時代おわりごろの京都で、幕府に敵対する志士などをとりしめた新選組。その幹部隊士の一人であった、永倉新八ゆかりの資料について紹介しします。(三浦)		開道の旅 —《北海道巡教錦絵》— 1870(明治3)年の夏、北海道を訪れ開道と巡教の旅をした、東本願寺現如上人とその一行。道中の景色を描いた鮮やかな錦絵を紹介しします。(春木)		北海道の双六あれこれ 北海道の風景や名産品などをテーマに、江戸時代から明治時代にかけて作られた双六について紹介しします。(三浦)		アイヌ民族を描く —早坂文嶺と《蝦夷島奇観》— 江戸時代の後半、絵師達は見知らぬアイヌ民族を、工夫を凝らして描きました。幕末の松前の絵師・早坂文嶺の絵に、その工夫の様相を探ります。(春木)			馬の肖像画家・畠中露山 大正・昭和期に道内各地を渡り歩き、馬を描き続けた画家・畠中露山。水墨で描かれた堂々たる馬の肖像画を紹介しします。(春木)		生誕200年 旅の巨人・松浦武四郎 江戸時代おわりごろ、蝦夷地と呼ばれていた北海道を6回にわたって踏査し、数多くの記録を残した松浦武四郎。2018(平成30)年に生誕200年を迎える武四郎ゆかりの資料について紹介しします。(三浦)
3	山田秀三とアイヌ語地名を歩く —登別— アイヌ語地名研究の第一人者・山田秀三(1899～1992)が、地名調査の記録などをびっしりと書き込んだ登別の地形図やノートなどを紹介しします。(小川)		先祖供養を行うときの屋内 アイヌ民族は、屋内で火の神へ祈りを捧げた後に、屋外で先祖を供養する儀式を行います。ここでは、火の神へ祈りを捧げる際に用いられる道具などから屋内のようすを紹介しします。(大谷、田村)		祈りの造形 —死者を悼む— アイヌ民族の伝統的なお葬式では、亡くなった人があの世で生活するために必要な道具を準備して持たせます。今回は、そんな道具の中から荷縄を紹介しします。(大坂)							
4	文字に記されたアイヌ語 —18～19世紀頃の資料から— 人々は、さまざまな思いでアイヌ語を文字にしてみました。そのような文字としてのアイヌ語を、資料をとおして紹介しします。(田村)		首都圏、近畿地方の近現代史 現代のアイヌ語では、就職や進学、結婚などをきっかけに、北海道の外で暮らしている人たちがたくさんいます。明治、大正、昭和…のアイヌ民族の歴史の中から、首都圏や近畿地方などで暮らす人々の歴史をたどります。(小川、大谷)		文字に記されたアイヌ語 —1890年ごろの北海道庁の試み— 人々は、さまざまな思いでアイヌ語を文字にしてみました。そのような文字としてのアイヌ語を、資料をとおして紹介しします。(小川)							
5	岩手県から北海道へ渡った神楽 100年ほど前に、岩手県から北海道へ移り住んだ人びとが、郷里で親しんだ早池峰系神楽をニセコ町刈太神社などで舞いました。権現様という獅子頭、演目の内容を記した神楽台本など、当時の道具類について紹介しします。(舟山、村上、池田)		いろいろな鋸 手挽き鋸である、伐木造材用の鋸、色々な面白い形の木工鋸、そして動力鋸であるチェーンソー、製材用の丸鋸盤等を紹介して、鋸への関心を高めてもらいます。伐木造材用の鋸の目立て動画も紹介して、鋸の手入れ技術への理解を促します。(青柳、山際、会田)		職人の道具と技術 —馬具・蹄鉄— 総合展示第3テーマの産業資料展示のなかで常設していない「職人の道具と技術」を紹介しします。第一段は「馬具・蹄鉄」職人の道具と技術を取り上げ、鞍、馬具作りの道具、蹄鉄、削蹄・装蹄道具などを展示しします。(会田)							
6	札幌オリンピック 1972(昭和47)年2月3日～13日の会期で、札幌オリンピック冬季大会が開催されました。招致運動から、オリンピックの閉幕まで、アジアで初めての冬のオリンピックを紹介しします。(山田)		たくぎん(北海道拓殖銀行) 1900(明治33)年4月に営業を開始し、1998(平成10)年に看板を下ろした「たくぎん」(北海道拓殖銀行)。さまざまな「たくぎん」資料群のなかから、高度経済成長期の北海道の経済や産業、人びとのくらしと関係の深いものを紹介しします。(会田)		札幌の百貨店 明治期に創業した丸井今井や、五番館、三越といった札幌の百貨店は、昭和20年代の終りごろには市内のすべての小売店の売り上げの約4割もの売上高を誇ったこともあり、これまで多くの人に親しまれてきました。ここでは、丸井今井と五番館、三越にちなむ品物を紹介しします。(尾曲)							
7	北海道のカタツムリのいろいろ カタツムリの仲間は移動が苦手なため、その場所ごとに独自に進化して色や形が違っている場合がしばしばあります。北海道のカタツムリの多様性を紹介しします。(堀)		リンゴはなぜ赤い？ 果実と種子のヒミツにせまる 木の実・草の実やタネにかくされた、植物が子孫をのこすためのヒミツにせまれます。(水島)		どこのウマの骨でしょう？ 体を支えるたくさんの骨にはひとつとして同じかたちのものはありません。いろいろな部分のウマの骨、どれがどこの骨でしょう？あなたはいくつ分かるかな。(表)							

平成29年度一般普及行事 年間計画

展示会関連	カテゴリー	名称(25字以内)	開催日時	担当・講師	会場・実施場所	対象	定員
	自然観察会	エゾアカガエルの合唱を聞こう	4月22日(土)10:00~12:00	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
企画テーマ展 関連行事	ミュージアムカ レッジ	最新研究報告—北海道と極東ロシアのシマフクロウ	4月30日(日)13:30~15:30	竹中健氏(シマフクロウ環境研究会代表)、表溪太	講堂	やや大人向け(小学生以下は保護者同伴)	80名(先着)
企画テーマ展 関連行事	自然観察会	「あなたの街のコウモリの森」in野幌森林公園	5月20日(土)17:00~19:30	中島宏章氏(フリーランス写真家)、堀繁久、水島未記、表溪太	講堂(講演会) 野幌森林公園内博物館 近く(観察会)	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
	講演会	「昆虫写真家 海野和男の生きもの写真のススメ」	5月28日(日)13:30~15:30	海野和男氏(生きもの写真リトルリーグ実行委員長)	講堂	子ども向け(小学生/中学生、小学生以下は保護者同伴)	50名(先着)
	ちゃれんがワーク ショップ	縄文土器をつくる(全2回)	第1回: つくる 6月4日(日)10:30~15:30 第2回: 焼く 6月25日(日)10:30~15:30	右代啓視・鈴木琢也	第1回: 講堂 第2回: 江別市セラミックアートセンター	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
	ミュージアムカ レッジ	学校をつくる—近代北海道のアイヌ民族による小学校設置の取り組み—	6月11日(日)13:30~15:30	小川正人	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
	自然観察会	「北海道フラワーソン」に参加しよう!	6月18日(日)10:00~12:00	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
	ちゃれんがワーク ショップ	石器をつくる	7月9日(日)10:30~15:30	本吉春雄氏(湧別川流域史研究会)、右代啓視・鈴木琢也	北海道博物館正面入口の西側広場(雨天の場合は正面入口付近あるいは講堂)	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
	特別イベント	北海道ジオパークまつり2017	7月15日(土)10:00~16:30	道内ジオパーク関係者(調整: 栗原憲一)	講堂	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)	なし
特別展関連行事	講演会	一途一心の野球道(みち)	7月16日(日)13:30~15:30	山崎夏生氏(NPB審判技術委員)	講堂	やや大人向け(小学生以下は保護者同伴)	80名(先着)
特別展関連行事	ちゃれんが子ども クラブ	ちいさな野球盤づくり	7月22日(土)13:30~15:00	村上孝一・舟山直治	講堂	子ども向け(小学生/中学生、小学生以下は保護者同伴)	30名(先着)
特別展関連行事	ミュージアムカ レッジ	明治・大正・昭和の日記に見る北海道と野球	7月30日(日)13:30~15:30	三浦泰之	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
	ちゃれんが子ども クラブ	トノサマバッタを追いかけよう	8月5日(土)10:00~12:00	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)	子ども向け(小学生/中学生、小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
特別展関連行事	講演会	日本野球界の現状と課題 ~野球王国北海道を目指して	8月6日(日)13:30~15:30	柳俊之氏(NPO法人北海道野球協議会理事長)	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
特別展関連行事	ちゃれんが子ども クラブ	フェルトで野球のバットとボールのストラップをつくろう	8月19日(土)13:30~15:00	会田理人	講堂	子ども向け(小学生/中学生、小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
特別展関連行事	ミュージアムカ レッジ	樺太全島野球大会	8月27日(日)13:30~15:30	会田理人	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
	ちゃれんが子ども クラブ	トコロテンの不思議	9月2日(土)13:30~15:00	会田理人・尾曲香織	講堂	子ども向け(小学生/中学生、小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
特別展関連行事	特別イベント	博物館寄席「北海道 野球の歴史で ございます」	9月3日(日)13:30~15:00	講談: 荒到夢形氏(講釈師)、案内役: 下斗米哲明氏(歴史研究家)	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
特別展関連行事	講演会	北海道高等学校野球連盟70周年を迎えて	9月10日(日)13:30~15:30	田中俊一郎氏(一般財団法人北海道高等学校野球連盟会長)	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
	ちゃれんが子ども クラブ	アンモナイトを解剖しよう	9月16日(土)13:30~15:00	栗原憲一・圓谷昂史	講堂	子ども向け(小学生/中学生、小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
特別展関連行事	講演会	ブラバン応援 もうひとつの夏の闘い	9月17日(日)13:30~15:30	梅津有希子氏(ライター)	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
特別展関連行事	ミュージアムカ レッジ	全道樺太実業野球大会	9月24日(日)13:30~15:30	会田理人	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
	自然観察会	木の実・草の実のヒミツをさぐる	10月7日(土)10:00~12:00	堀繁久・水島未記・表溪太、濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
	ちゃれんが子ども クラブ	アンモナイトのレプリカをつくろう	10月7日(土)13:30~15:00	圓谷昂史・栗原憲一	講堂	子ども向け(小学生/中学生、小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
	ちゃれんがワーク ショップ	アイヌ民族の編みものをつくる—エムシアツの技術でプレスレット—	10月22日(日)10:30~15:30	大坂拓	講堂	やや大人向け(小学生以下は保護者同伴)	30名(先着)
	特別イベント	ミュージアムコンサート アイヌ音楽ライブ	11月3日(金・祝)12:00~13:00	MAREWREW(マレウレウ)	記念ホール	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)	100名(先着)
	ちゃれんが子ども クラブ	アイヌ音楽 うたおう・おどろう・ならそう・ひこ	11月11日(土)13:30~15:00	甲地利恵	講堂	子ども向け(小学生/中学生、小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
	ミュージアムカ レッジ	アイヌ民族の刀帯—その変化を探る	11月19日(日)13:30~15:30	大坂拓	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
	ちゃれんがワーク ショップ	稲わらで縄をつくって、長なわとびに挑戦!	11月26日(日)13:30~15:30	池田貴夫・舟山直治	講堂	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
	ミュージアムカ レッジ	江戸時代の日露紛争・フヴォストフ事件を読む	12月3日(日)13:30~15:30	東俊佑	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)

	ちゃれんが子どもクラブ	文字であそぼう♪ 消しゴムはんこづくり	12月9日(土)13:30~15:00	春木晶子・三浦泰之・水島未記	講堂	子ども向け(小学生/中学生、小学生以下は保護者同伴)	30名(先着)
	ちゃれんがワークショップ	博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり	12月17日(日)13:30~16:00	春木晶子・三浦泰之・水島未記	講堂	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)	30名(先着)
	特別イベント	博物館のバックヤードを見てみよう	12月23日(土・祝) 1月8日(月・祝) ①11:00~12:00 ②13:00~14:00	杉山智昭・山際秀紀	収蔵庫・ボイラー室・保存処理室・展示場ほか(会議室集合)	やや大人向け(小学生以下は保護者同伴)	各回10名(先着)
	古文書講座	はじめての古文書講座①入門編(全3回)	1月7日(日)・21日(日)・2月4日(日) 13:30~15:30	東俊佑	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
	ちゃれんが子どもクラブ	いのりのしるし? 絵馬づくりにチャレンジ	1月13日(土)13:30~15:00	春木晶子・三浦泰之	講堂	子ども向け(小学生/中学生、小学生以下は保護者同伴)	30名(先着)
	ミュージアムカレッジ	1882年4月、襟裳岬近くで難破した英国船	1月14日(日)13:30~15:30	山田伸一	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
	ちゃれんがワークショップ	太古の絶滅生物・アンモナイトの復元	1月28日(日)13:30~15:30	栗原憲一・圓谷昂史	講堂	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
	ちゃれんが子どもクラブ	雪のなかで宝さがし	2月10日(土)13:30~15:00	舟山直治・池田貴夫	講堂	子ども向け(小学生/中学生、小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
	古文書講座	はじめての古文書講座②続編(全3回)	2月18日(日)・3月4日(日)・18日(日)13:30~15:30	東俊佑	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
	自然観察会	雪の森で足跡を探そう	2月24日(土)10:00~12:00	堀繁久・水島未記・表溪太・濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
企画テーマ展 関連行事	アイヌ語講座	見てみよう! カムイとアイヌの物語	2月24日(土)13:30~15:30	遠藤志保・大谷洋一(※講師は追加の可能性あり:アイヌ民族博物館職員など)	講堂	やや大人向け(小学生以下は保護者同伴)	80名(先着)
	ミュージアムカレッジ	野幌周辺の動植物を探る~化石から現在まで~	2月25日(日)13:30~15:30	水島未記・添田雄二・表溪太・圓谷昂史	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
	ちゃれんが子どもクラブ	アイヌ語であそぼう!	3月3日(土)13:30~15:00	田村雅史・大谷洋一	講堂	子ども向け(小学生/中学生、小学生以下は保護者同伴)	40名(先着)
企画テーマ展 関連行事	アイヌ語講座	見てみよう! カムイとアイヌの物語	3月10日(土)13:30~15:30	遠藤志保・大谷洋一(※講師は追加の可能性あり:アイヌ民族博物館職員など)	講堂	やや大人向け(小学生以下は保護者同伴)	80名(先着)
企画テーマ展 関連行事	講演会	アイヌの物語世界	3月17日(土)13:30~15:30	中川裕(千葉大学文学部教授)	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)
企画テーマ展 関連行事	アイヌ語講座	見てみよう! カムイとアイヌの物語	3月24日(土)13:30~15:30	遠藤志保・大谷洋一(※講師は追加の可能性あり:アイヌ民族博物館職員など)	講堂	やや大人向け(小学生以下は保護者同伴)	80名(先着)
	ミュージアムカレッジ	アイヌ音楽を知らない人のための アイヌ音楽入門講座	3月25日(日)13:30~15:30	甲地利恵	講堂	大人向け(中学生以上)	80名(先着)